

## 昭和大学附属烏山病院における ギャンブル等依存症の治療への取組や 民間団体との連携について

常岡俊昭

昭和大学医学部精神医学講座 講師

昭和大学附属烏山病院

### ギャンブル障害

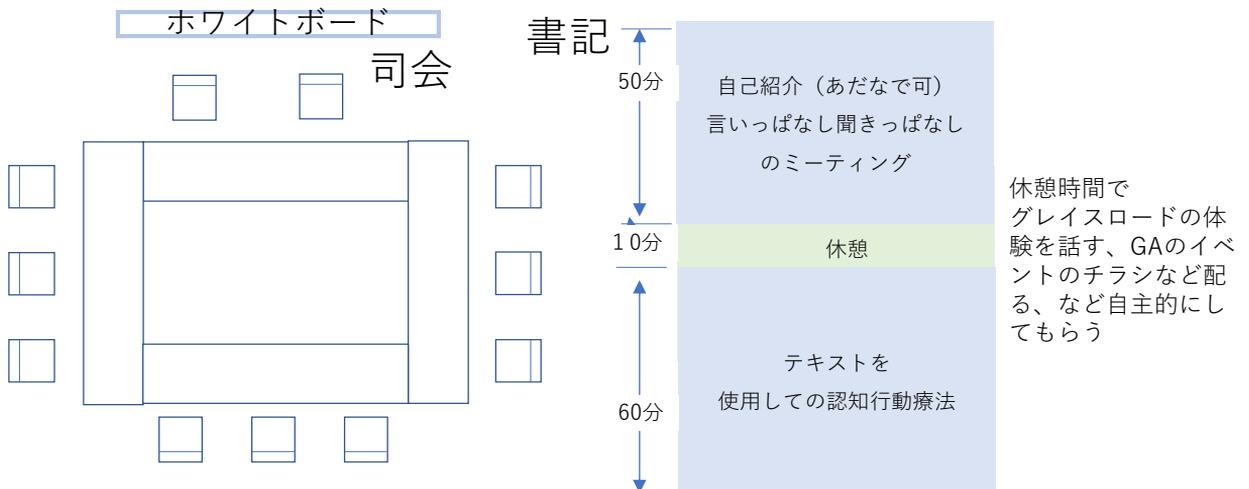
- 2018年ごろよりアディクション外来での初診が増える
- 薬物・アルコールと一緒にSMARPPでは共感得られず⇒
  - 2019年1月より参加者を行動嗜癖に特化したプログラム
- GA勧めるもほとんど行かず⇒
  - 2019年8月よりSBIRTSの応用
  - グレイスロードとの連携
  - プログラム内や外来の待ち時間での直接の勧誘

# 昭和大学附属烏山病院 アディクションプログラム一覧

2019.09.06 版

プログラム名	日時	対象	患者人数	参加スタッフ	特記
併存障害治療プログラム	毎週月曜日 14:30~16:30	AL・薬物・ ギャンブルなど	入院： 10~20人	Dr・OT・ Ns	統合失調症やうつ病などの合併者や医療保護入院中の者が多い。SMARPPを基本に、DARC、作業所のメッセージ・SSTなどから構成。浅く広く楽しく。
SMARPP	毎週月曜日 10:00~12:00	AL・薬物・ ギャンブルなど	外来： 20~25人	Dr・OT・ 心理士・PSW	隔週・月一などでも参加可能。スリップの有無は自己申告のみ。
ギャンブル障害治療プログラム	第2・4金曜日 14:00~16:00	ギャンブルなど 行動嗜癖中心	外来・入院 5~10人	Dr・OT (GAメンバー)	前半はテーマを決めて言いつばなし聞きつばなし。後半はKIPPを使用。
言いつばなしプログラム	毎週火曜日 13:30~15:30	AL・薬物・ ギャンブルなど	外来・入院 5~10人	OT (断酒会/A A メンバー)	集まったメンバーでテーマを決めて、一人ずつ話したい話を口に出してもらおう。
アルコールバックプログラム	個別	「アルコールと鬱」に関わる者	開放病棟入院 個別	Dr・Ns・ 心理士	集団に入ることに抵抗があるものに個別で行う。全8回開放病棟入院患者のみが対象。

## ギャンブル障害プログラム



\* 若いDrがローテーションで後半の司会を行い、定期的に参加者に会う事で回復を実感し、ギャンブル障害の知識が得られるよう工夫（プログラム参加で薬物依存症者に対する治療態度が変化する、当院の先行研究あり）スタッフ・見学者にも自身の当事者性にも目を向けてもらえるよう参加してもらおう

## SBIRTSプログラム

開始日：令和元年8月（毎週金曜日）



### 対象：

自助グループに繋がっていない  
アディクション外来初診患者・家族

### 協力自助グループ：

➤アルコール（東京断酒会）



➤薬物（渋谷ダルク・ダルク女性ハウス）



➤ギャンブル（GA・ギャンブル依存症を考える会）



## 烏山病院SBIRTS手順

1. 医師が患者に自助G紹介の同意を得る
2. 医師が外来看護にSBIRTS実施を依頼
3. 院内PHS経由で各自助G担当者へTEL
4. 患者へPHSを渡し担当者と直接会話
5. なるべく初回参加日を電話口で確定。
6. 次回診察時に患者から医師に感想報告

\*初診のタイミングを逃さない  
（再診の機会があるかは分からない）

2019年1月～2020年8月ギャンブル障害患者	
初診患者数*	35
初診時でGA参加	6
SBIRTS施行前の受診	8
SBIRTS施行後対象者	21
SBIRTS施行	17
当日プログラムでGAメンバーと会う	1
当日入院	1
GAを勧めない病院を希望	1
途中で椅子蹴る	1

\* 全員男性、平均年齢41歳

GAとの関係		
	全人数	GA参加者
初診者数*	35	18
当院プログラム参加者**	23 (17)	15 (9)
SBIRTS	17	9

「プログラム⇒GA」はプログラム内のGAメンバーが複数になってから急速に活性化した印象

\* 2020年12月までに入院4名：

退院後ダルク1名、グレイスロード1名、治療中断1名、入院中1名

\*\* 初診時GA不参加者のみは ( ) 内

## このやり方だと

- 医療では細かいフォローをすることができないけど…  
⇒ 素晴らしい専門家でなくてもできる
- SBIRTSは医者と外来スタッフ1人で施行可能
- プログラムもスタッフは少人数で可能  
⇒ マンパワーが少なくて済む
- 若いDrがGAに通い続けている人とプログラムで会うことに  
⇒ 自助グループの効果を実感
- 先行く仲間にGAの宣伝・説明を行ってもらおう役割を担ってもらおう  
⇒ 患者から仲間へ。援助者も孤立しない。

## 今、僕たちが考える理想の連携は

プログラム内の仲間や待ち時間に直接誘ってもらい、自助グループの経験を最終的には自助グループ中心に



併存疾患を疑ったら・悪化したら  
自助グループ以外の場所が欲しくなったら  
**死にたくなったら**